

リハビリ部部長 理学療法士 池田 (H18年卒業)

当クリニックでは、一つの分野を追求して勉強し、常に最新の情報をアップデートしていく必要があります。そのために必要なことは、まず多くの患者さんを診ていくことです。触った分だけ得るものがあり、指先に感じ取れる何かがあります。

日々、同期よりも一人でも多く患者さんを診る、先輩の治療を診る、そんな熱意が必要です。与えられる仕事が同期よりも多く、自分だけが忙しい・・・、友達と話すと自分だけがきつい思いをしている・・・、そのように考えるような人は、当クリニックには向いていません。“させられている”という受け身ではなく、“やるんだ”という自主性を持っている方に入職して頂きたいと思います。日々の意欲、頑張りが認められれば、様々なチャンスがあります。私自身、海外研修で韓国、ニューヨークの施設見学へ、国内の学会、大学病院の施設・手術見学などへ参加させて頂き、外の世界を見ることで見えてくるものが数多くあり、自身の刺激となりました。日本、世界で活躍されている方々は、並々ならぬ努力をされ、実際にそのような方と会い、話しをさせて頂く機会もありました。また、フルマラソンやスキーなどスポーツを行う機会もあります。自身、人生でフルマラソンに参加するとは思いませんでしたが、42.195km走り終えた時の達成感は何とも言えませんでした。今後、理学療法士の世界は厳しい現状が待ち受けています。年々、給与も減額されてきています。理学療法士としてあるべき姿、生き残っていくために必要なことは、誰にも負けないくらいの日々の努力です。当クリニックでは同期であっても能力差によって給与にも差が生じてきます。目先のことでなく、将来のビジョンを思い描き、「今」やらなければならないこと、犠牲にすべきこと・・・考えて行動していく必要があります。当クリニックでは普通の理学療法士は求めています。プロフェッショナルな理学療法士を求めています。

リハビリ部副部長 理学療法士 渡辺 (H19年卒業)

当院は「広川でも最新医療の提供を!!」という理念に基づいて仕事を行っています。そのためには、日常のリハビリテーション業務以外でもやるべき事がたくさんあります。

私は、生え抜きではなかったため、生え抜きスタッフや、私が入職以前から働いているスタッフに 追いつくことから始まりました。そのため、毎晩深夜を回るまで勉強しました。また、入職して1週間目に英文誦読、4 ヶ月目、1 年目に、学会発表を経験しました。学会発表は2年目も3年目もさせていただいています。学会以外にも、院内勉強会で発表することもあるため、休日返上で勉強しなくてはならないことも何度もありました。勉強以外にも、医師や他部署のスタッフと交流を図るために、マラソンやバドミントンに参加しなければなりません。頑張り続ける事によって、海外研修やプロスポーツ選手の自主トレに帯同するチャンスがいただけます。ただし、研修や帯同に参加するためには、準備が必要であり、帰って来てからはしっかりとクリニックに還元出来るように報告会をしなければいけません。また、病院を休んで参加する分ですから、その後、休みはほとんどとれません。給与に関しては、日本の理学療法士の平均よりもいただいています。プライベートはほとんどありません。当院は、本気で理学療法士をやってみようと考えている方を募集します。プライベートを犠牲にしても、生き残っていきたくて考えている方、上を目指そうと考えている方、大歓迎です。

リハビリ部副部長 理学療法士 中谷 (H21 年卒業)

当院での理学療法士の仕事はリハビリテーション以外にも色々あります。手術前後のインフォームド・コンセントや担当患者の手術見学などあります。勉強会では、レントゲンや MRI カンファレンス、全スタッフ参加の勉強会、学会発表、英語論文のプレゼン、各々の委員会活動があります。また、スポーツ部の活動もバドミントンやマラソン等色々ありますので、帰宅する時間も翌日になることもほぼ毎日続きます。正直プライベートの時間もほとんどありません。毎日忙しい日々を送っていますが、毎年年末になってその年を振り返ると充実感を得る事があります。このような経験は、新人の頃から身に付ける事で将来の土台作りとも私は考えています。私は、これまでに様々な貴重な経験もさせて頂いています。プロ野球選手や日本代表競泳選手のコンディショニングや国内外への帯同、国内の病院や国立スポーツ科学センターの見学、学会の参加、トレーナー研修会、フルマラソンや bike new york といった普段経験出来

ないようことも経験させて頂きました。こういったチャンスもありますし、経験することで、モチベーションも上がります。そして、自分のキャリアとして、一生残るものだと思います。膝の障害、スポーツ障害について極めたい方は最適な環境だと思いますので、入職した際は同じ方向性に向かって、一緒に良いものを築き上げていきましょう。